



飯能西中だより

天覧山 6月号

飯能市立飯能西中学校
学 校 だ よ り
令和6年度 第3-1号
令和6年6月4日発行

＜校訓＞ 誠・和・進

＜学校教育目標＞ 自立・共生

＜目指す学校像＞ 心のよりどころとなる世界に誇れる学校

一人ひとりが大切にされていることが実感でき家に帰った時に元気よくたどり着ける学校でありたい
飯能西中学校スクールアイデンティティー

制服について考える

校長 中村 公一

新緑がまぶしい爽やかな季節となりました。以前は夏服を着用する6月から9月にあわせて衣替えを行っていましたが、近年では地球温暖化の影響で平均気温が高まり、クールビズの期間も5月から10月までとなり、およそ一年の半分は夏服ですごすようになってきました。このようなことも踏まえ、今月から当面の間は制服の代わりに体育着を着用してもよいこととお知らせする案内を保護者の皆様宛てにお配りしましたので、詳細については再度案内文をご確認ください。

ところで本校の制服が制定されたのは今から45年ほど前のことになります。制定当時は学生服といえば学ランとセーラー服が当たり前の時代でしたが、西中の新しい制服は時代の先を行くような目を引くものとしたかったので当時としては大変珍しかったブレザースタイルを採用したというお話を、以前学生服組合に携わっていた方から伺ったことがあります。現行の制服はその後の激動する時代の中でその役目を十分に果たしてきたと言えるでしょう。制服の制定に係わってこられた皆様には心からの敬意を表したいと思います。そのような伝統ある制服も、時代の流れとともにそろそろ新しい時代にあったものを検討する時期に入っており先送りにはできない課題です。

そもそも学校ではなぜ制服を定めているのかその理由を考えてみたいと思います。小学校の中にも制服を定めている学校はありますが、多くの場合、制服を定めているのは中学校や高等学校です。もともと学生服と言えば詰め襟の学ラン（ランは洋服を総称した蘭服が起源という説があります）とセーラー服が主流でしたが、時代の変化に合わせて様々な色やデザインのブレザータイプが好まれるようになってきました。昭和から平成にかけてのバブル期には有名なブランドやデザイナーによるファッション性の高い制服が現れ、制服のデザインが学校選びの条件に加わったり、制服の価格が高額になったりすることが批判的に受け止められることもありました。このような経過をたどり現在ではその学校の特徴や精神などを象徴するアイデンティティーの一つとして様々なデザインやスタイルの制服が用いられていますが、あえて制服を定めないことを特徴としている学校もあります。ここで少し私の経験をお話したいと思います。私が高校生のころ通っていた学校では特に制服を定めてはおらず、ほとんどの生徒（応援団や部活などで制服着用が定めのない生徒）は私服で通学していたのですが、私自身は高校生活のほとんどの期間を学ランで過ごしました。その頃はまだインターネットなどがなかったので、流行の先端に行く情報は常に雑誌などから得ていたのですが、プレッピースタイルやハマトラなどが流行し始める頃で、紺ブレにチノパン、チルデンセーターなどおしゃれにお金をかけている生徒は結構いました。外見が気になる歳頃なので、しょうがなかったのかもしれませんが、私服で毎日同じようなものを着回していると陰で揶揄されることがあり、悔しくても閉口せざるを得なかったことを思い出します。しかしあるとき古典の授業で装束や制服の話になったのですが、授業を担当していた先生が「全員が同じ制服を着るのは没個性だという人もあるが、学問の前に於いては何人（なんびと）も平等であるという意味もあると思うんだ。」と仰ったのをきっかけに、それからは当たり前のように学ランで過ごせるようになったことを覚えています。制服がある意味をはじめとして制服のメリットやデメリットなどについて、教員や保護者だけでなく、生徒や地域の方なども交えて幅広く慎重に考えていく必要がありそうです。

ツデーマーチボランティア

5月25日（土）、26日（日）に開催された飯能新緑ツデーマーチには今年も多く生徒がボランティアとして参加しました。当日は遅刻もなく、参加態度も大変よかったとお褒めの言葉をいただきました。

中学生ボランティアの役割はツデーマーチ参加者へのサポートが中心です。最初はぎこちなかった参加



者とのやりとりも、だんだん慣れてくるにつれて自分から積極的に声をかけることが出来るようになっていました。見知らぬ相手でも自分から働きかけることで相手から感謝の言葉をもらい元気が出たようです。以前にもお話ししましたが、これから生き抜いて行く上でチャンスをつかみたいのなら待っているだけではだめです。日頃の挨拶にしても、今回のボランティアにしても、恐れや不安を抱きながらも勇気を出して自ら働きかけていけばいろいろな可能性が見えてくることを教えてくれています。

高校進学など進路決定に向けた取り組み

生徒の皆さんへ

昨年この時期の学校だよりでお話しましたが、中学卒業後の進路は3年生になってから考えればいいというものではありません。中学卒業後に高校や専門学校など何らかの学校に進学しようと考えている人は多いと思うのですが、たくさんある学校の中から自分にふさわしい学校を見つけるのはなかなか難しく時間がかかるからです。実際に高校へ進学したものの、高校1年生で中途退学してしまう生徒が多いことから考えれば、入ればどこでもいいからそのときになったら決めればいいという考え方ではいけません。それぞれの学校の特色を理解し、それらを比較検討して慎重に考えなければならぬといえるでしょう。その際、とても役に立つのが複数の学校が出展する進学相談会や説明会です。先月の学校だよりにも掲載しましたが、毎年7月にさいたまスーパーアリーナで開かれている「彩の国進学フェア」は公立、私立共に参加校の数が最も多く、一日で複数の学校の説明が聞けるので高校を比較しやすいのと同時に、時間の節約にもなります。また受験用の参考書なども合わせて購入できるのでお勧めです。さいたま市方面では中学1年生や中学2年生の参加者も多く、高校進学に向けた意識の高さがうかがえます。西中の皆さんは大変素直で前向きなエネルギーをもっている素晴らしい中学生です。スイッチを入れさえすれば高い能力を発揮できるはずですから今から気持ちを強く、そして志を高く持って頑張ってください。

○ 6月の主な行事予定 ○

3日（月）教育実習（6/21まで）	15日（土）学校総合体育大会
6日（木）2年生宿泊学習（長野湯の丸高原）	16日（日）学校総合体育大会（陸上競技）
7日（金）2年生宿泊学習（2日目）	19日（水）1年生校外学習（川越方面）
通信陸上県大会	高校の出前授業（2、3年生）
8日（土）奥武蔵ロングトレイルレース	26日（水）3年生修学旅行
7日の夕方から8日朝まで体育館使用	27日（木）3年生修学旅行（2日目）
13日（木）生徒会朝会（学総壮行会）	28日（金）3年生修学旅行（3日目）
14日（金）学校総合体育大会	29日（土）地区代表決定戦、諸活動停止期間

お知らせ

とうのす学級では学校ファーム（とうのす学級の畑）で穫れたジャガイモなどを販売するバザーを行います。販売品はジャガイモ（100g・30円）、生レモングラス（3本・150円）などのハーブ類、切り絵版画の絵はがき（1枚・100円）です。期日は7月8日（月）～7月12日（金）の5日間。販売時間は全日とも9時から15時までです。販売場所は飯能西中学校1階にあるとうのす学級ですが、テニスコート側の校庭から下足のままお入りいただけますので、是非ご利用ください。ご来校をお待ちしております。